

塚脇地蔵講の歴史

明治21年から始まった塚脇地蔵講は、流行りの疫病から住民を守る願いをお地蔵さんに託し、野菜や果物、粘土などの身近な材料を使った見立て細工を作ったことから始まりました。

町内11か所にお地蔵さんを置いて供養しています。

今年も八月二十四・二十五日に塚脇地蔵講（実行委員長 山上誠治）が開催され、多くの見物客で賑わいました。

今年は「地蔵講百二十周年記念祭」としてスタンブラリーや ×クイズなど各種イベントが盛大に行われ、見立て細工製作にも町内会他に六団体の協力をいた

塚脇地蔵講 120周年祭

今年も八月二十四・二十五日に塚脇地蔵講（実行委員長 山上誠治）が開催され、多くの見物客で賑わいました。

夏休み「子ども手づくり工作教室」

8月23日（土）に玖珠地区青少年健全育成協議会主催の「工作教室」が、小学生・幼児合わせて17名の参加で開催されました。

指導協力者16名、引率保護者6名の方々の手助けを受けて、午前中3時間の活動で定規、ハサミ、ノコ、ペンチ、カッターナイフなどの扱いを体験し、紙飛行機から発展の「ジェット飛行機」と木製の「スーパーカー」の2つの作品を製作しました。

「スーパーカー」の胴体にする板材を斜めに切るのは、なかなか骨の折れる工程のようでした。ザラザラだった板材も紙やすりで根気よく磨き続けて、例示された見本作品に近づくように段々なめになっていきました。

「スーパーカー」の試し運転では、丸木のタイヤのバランスが取れず、途中で急に方向を変えたり、タイヤが心棒から外れてしまうハプニングもありましたが、苦労と工夫をしながら自分流のものを作っていくことの面白さを味わうことができました。



だき、町内十五箇所に国体マスコット「めじろん」や映画「崖の上のポニョ」など、時代を反映した見立て細工が作られました。

天候にも恵まれ、訪れた

たくさん見物客は、力作揃いの見立て細工に見入っていました。



見立て細工製作

- 町内会 9団体
- 玖珠町役場
- 商工会
- 塚脇小学校3年生
- くすのき保育園
- くるみ保育園
- カトリック幼稚園



「折るんだよね！」